

音楽療法士 工藤 麻子さん



音楽療法士になったきっかけについて教えてください

音楽教室の講師を始めて間もない頃、音楽雑誌の中で音楽療法という言葉を目にしました。私が好きだったアーティストが、これから医者と協力して音楽療法をやってみようという内容でした。「音楽療法ってなんだろう？」と思い調べたところ、札幌で勉強会があることを知り、参加したのが始まりです。その勉強会はアメリカで学んで帰国した先生が音楽療法を広めるために始めたものです。2カ月に1回くらいの頻度で、みんなで滝野に泊まり込み、座学のほか、ロールプレイやディスカッションをして学びを深めました。

音楽療法士の資格とはどのようなものですか

私は日本音楽療法学会認定の音楽療法士です。私が資格を取得した頃は、講義を受けて地道にポイントを重ね1000ポイント以上で受験申請できました。そのほか3年以上の臨床経験が必要で、学会で発表するなど幅広い活動が求められていました。現在は、資格試験受験認定校で体系的に学び卒業することで受験資格を得ることができず、日本では残念ながら国家資格にはなっていませんが、海外では複数の国で国家資格として認められています。

音楽療法士の活動場所はどこですか

音楽療法士という職業は、いまだに世間には広く認知されていません。高齢者・精神科・児童・ホスピスなど活動の場は広いですが、北海道で正職員になっている人は数える程度です。当院のように非常勤の職員になることも多くないのが実情です。

当院での活動について教えてください

週に2度、水曜日と金曜日に出勤し、医療スタッフのカンファレンスに参加して患者さんのその日の様子を把握します。その後、病棟内のデイルームで集団音楽療法を行っています。患者さんと一緒に歌ったり、聴いていただいたり、リクエストをいただくことも多いです。ときには患者さんに楽器を持っていただき、一緒に演奏を楽

しむこともあります。ボランティアグループせらさんのメンバーも患者さんの側に寄り添ってくださっているので、色々な場所で交流が生まれます。音楽を楽しむ方、会話を楽しむ方、人によって求めるものは違うと思いますが、それぞれのスタイルで楽しんでいただけたらと思っています。

個別の音楽療法はどのように行っていますか

集団音楽療法に参加するのはちょっと・・・という方でも、お部屋に来てくれるなら音楽が聴きたいと仰る方も少なくありません。スタッフからの依頼を受けることもあれば、私からスタッフに、この方はどうでしょう？と聞いて訪問することもあります。基本的にはリクエストを中心に、患者さんの歌に伴奏をつけたり一緒に歌う事が多いですが、私の演奏をじっくり聞いていただくこともあります。曲にまつわる思い出話やエピソードも多く、音楽と会話を共有する時間になっています。

忘れられないエピソードを教えてください

「私は、ゆっくり過ごさせてもらいたいと思ってここに来ました」という方がいました。「この人たちはみんな優しく、自由に好きなように時間を過ごさせてもらっています。まるで竜宮城のような場所だと思う。音楽も楽しくてすごいね」と言ってくださって。さらに、『おくりびと』という映画の話をして「あれは亡くなった人を送る人の話だけれど、ここは生きている人を自由にさせてくれて優しくしてくれて。この人たちこそ、おくりびとだと思います」と仰いました。同感でしたし、その時に、私も竜宮城の一員になれるように頑張ろうと思い、現在にいたっています。

これは難しいと思ったことはありますか

患者さんが音楽療法に何を求めているのか？を読み取ることが一番難しいと思っています。音楽療法の対象になるのは基本的に、音楽が好きな患者さんです。歌って楽しみたい、聴いて癒されたいと仰っていても、音楽を介して会話を重ねていると、実は本当に求めていたものは違うものだった、ということもあります。それを敏感にキャッチすることが難しいですね。

また、当日その場でリクエストをいただくことがほとんどなので、楽譜があったとしても知らない曲の場合は、はたして本当にその曲の雰囲気を出して演奏できているのだろうか？と、そこにも難しさを感じています。

これからの夢、やりたいことはどんなことですか

病院全体の中で動くのが目標です。現在はホスピス病棟と一般病棟で活動させていただいていますが、廊下で出会った患者さんと、その場で音楽が始まることもあります。音楽に理解のある当院ならではの光景かもしれません。時間に限りがあるため、なかなか活動範囲を広げることが出来ませんが、いつか病院内をラウンドして、外来、リハビリ、透析室など、病院の隅々にまで音楽をお届けできたらいいな、と思っています。